

1.「ユネスコクラブ全国サミット」(2013年11月30日)の開催

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)が文部科学省より受託した「平成25年度 日本/ユネスコ パートナーシップ事業」の一環として、2013年11月30日(土)に、玉川大学を会場として、「ユネスコクラブ全国サミット」を実施した。この「ユネスコクラブ全国サミット」は、翌日2013年12月1日(日)に多摩市で開催された「第5回ユネスコスクール全国大会」のサイドイベントとして位置づけられた。

この「ユネスコクラブ全国サミット」は、「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク」(ASPUnivNet)加盟大学のユネスコクラブおよび関連するユネスコ協会青年部に所属する全国の大学生が集い、ESD(持続可能な開発のための教育)のさらなる展開に向けて、次世代の指導者である大学生に何が求められ、また何ができるのかについて、地域連携、国際連携および大学間連携を視野に入れた議論を行った会である。

「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク」のESD推進事業はこれまで主として教員が中心となって企画・運営されてきた。しかしユネスコスクールのESD教育に対する大学の支援において、学生も大学のユネスコ・ESD活動に大きな役割を果たしている。とくに大学の課外活動の場としてのユネスコクラブは、持続可能な未来に向けて次世代の指導者を育成するという重要な意味を持っている。しかしこれまでASPUnivNetを含む大学ユネスコクラブは大学ごとの単独の活動に終始しており、大学間をつなぐ交流や連携はほとんど行われて来なかった。そこで今回の「ユネスコクラブ全国サミット」は、「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク」の枠組みを活用しながら、ユネスコクラブの大学間の交流を促進し、ユネスコクラブの大学間ネットワークの構築に向けた足がかりを得ることを目的として開催された。ASPUnivNet加盟大学のユネスコクラブ7団体とユネスコ協会青年部5団体が互いの活動紹介をすると同時に、国内外の今後のESDの進展に向けて、大学のユネスコクラブとしてどのような貢献ができるかについて協議を行った。これにより大学ユネスコクラブ間の情報交換と課題意識の共有が図られた。また全国的ネットワーク化に向けて大学間のユネスコクラブ相互交流を今後定期的に行ってゆくことで合意した。この協議の結果は最後に「共同声明」を採択するという形でまとめられた。全国の大学ユネスコクラブの代表学生がこのような形で一堂に集まり、互いの情報交換と連携のネットワーク構築を協議するのは初めてのことであり、青年ユネスコ活動の発展のためにも大きな意義があるイベントであったと言える。今後の課題は、今回の「ユネスコクラブ全国サミット」を一回限りのイベントではなく、定期的な協議会やイベント開催を行う大学ユネスコクラブの全国的ネットワークとしてどのように定例化、組織化してゆくか、という点にある。またASPUnivNet以外の大学ユネスコクラブ(例えば慶應大学ユネスコクラブ、ICUユネスコクラブ、京都大学ユネスコクラブ等)や、各地域のユネスコ協会青年部とどう連携し、ESDの学び合いシステムを構築してゆくかも大きな課題として確認された。

2.「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」ホームページの運営管理

多摩市や稲城市、川崎市、横浜市など近隣自治体とのユネスコスクールにおける連携を強め、ASP地域ネットワークとしての機能を拡充するために、平成24年度に開設したWEB上のホームページ「ユネスコスクール多摩地域ネットワ

ーク」(<http://unesco-school-tama.jp>)を本年度のユネスコスクール活動の拡充と連絡体制の強化のために運営管理した。

このホームページは、ユネスコスクールを拠点とした「ESD 多摩地域コンソーシアム」の構築に向けて、多摩地域のユネスコスクール関係者同士の情報共有のフォーラムとして作成されたものである。多摩市や稲城市など関連自治体におけるユネスコスクールのリストと代表的実践の紹介、また多摩地域におけるユネスコスクール関連行事の広報と参加申込みなどの目的で活用されている。上記の「ユネスコクラブ全国サミット」の広報にも本ホームページを活用した。個々のユネスコスクールの学校紹介については、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)が運営管理する全国版「ユネスコスクール公式ウェブサイト」

(<http://www.unesco-school.jp>)とリンクしており、学校名をクリックすると全国版ウェブサイトでの詳細な学校案内が閲覧できるようになっている。

今後は、この「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」に参加する自治体や学校を増やし、内容的にもユネスコスクールにおける優れた教育実践(GP)をより積極的に紹介していくことで、多摩地域におけるユネスコスクールおよびESD関連の情報共有の場としてその機能を一層高めていくことが期待される。

3. 「第5回ユネスコスクール全国大会」への参加と支援

2013年12月1日(日)に多摩市の多摩永山情報教育センターで開催された『第5回ユネスコスクール全国大会』に教員と学生(とくにユネスコクラブの部員学生)ともども参加した。全国各地域のユネスコスクールにおけるESDを中心とした教育実践の最前線について学ぶと同時に、2014年11月に愛知県名古屋市および岡山市で開催されるESD世界会議に向けて、多摩地域における学校、大学、行政、地域社会をつなぐ学際的なESD地域コンソーシアム構築の可能性と課題について、文部科学省や多摩市を含む関係者と議論を深めた。また玉川大学ユネスコクラブの学生たち(その多くは教員志望)には、大会当日の会場スタッフとして支援活動に参加してもらい、ユネスコスクールのネットワークを活用した教育実践の成果と課題について体験学習をしてもらった。

4. ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)の活動

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)の加盟大学として、以下の「平成25年度 日本/ユネスコ パートナリシップ事業」ASPUnivNet連絡会議に参加し、加盟大学間のネットワーク強化と共同事業の展開に向けた提案と協議を行った。

また2013年11月30日に宮城教育大学が中心となり「日本/ユネスコ パートナリシップ事業」として玉川大学にて開催したシンポジウム「Rice プロジェクト～アジア地域の学校間交流」の共催機関として運営実施に協力を行った。

さらにASPUnivNetの活動に関心を持ち、大学としての加盟を検討している埼玉大学(飯島聡教授)、東海大学(小貫大輔教授)、桜美林大学(大越孝副学長)に対して情報提供等の支援を行った。

a) 「平成25年度 日本/ユネスコ パートナリシップ事業」

第1回ASPUnivNet連絡会議(東京工業大学キャンパスイノベーションセンター、2013年7月13日)

- b) 「平成 25 年度 日本／ユネスコ パートナーシップ事業」
第 2 回 ASPUnivNet 連絡会議（玉川大学、2013 年 11 月 30 日）

5. 「第 1 回神奈川県ユネスコスクールセミナー」(2013 年 8 月 1 日)の実施

地域における学校種を超えたユネスコスクール同士の交流と連携を強化するために、玉川大学教育学部（小林亮）、神奈川県立有馬高等学校（望月浩明教諭）、横浜市立永田台小学校（住田昌治校長）が発起人となり、2013 年 8 月 1 日（木）に、「第 1 回神奈川県ユネスコスクールセミナー」を鎌倉の横浜国立大学附属鎌倉中学校を会場に開催した。神奈川県内のユネスコスクール小中高校およびユネスコスクール加盟申請を検討している学校関係者 100 名以上が参集し、相互の ESD 教育実践の成果を発表し合うと同時に、今後こうしたユネスコスクール地域セミナーを定期的に開催し、神奈川県下のユネスコスクール同士の交流・連携を促進してゆくためのネットワークを構築してゆくことで合意した。今後は基本的に毎年、関係校や教育委員会の協力を得て神奈川県ユネスコスクールセミナーを開催してゆく予定である。

6. マカオ・スタディツアー（2013 年 9 月 8 日～11 日）の実施

玉川大学ユネスコクラブは、2013 年 9 月 8 日～11 日にかけて、多文化共生地区の一つのモデルであるマカオ（澳門）にスタディツアーを行った。2005 年にユネスコ世界遺産に登録された「マカオの歴史地区」を構成する 22 か所の歴史的建造物および 8 つの広場すべてを訪問し、中国の伝統文化とポルトガル文化とが融合し、共生する都市文化のあり方を体験学習した。またマカオの中国政府の高等教育補助辦公室と澳門大学を訪問し、現地の専門家からマカオの高等教育の現状と課題を学ぶと同時に、日本の高等教育との関係強化に向けた積極的な姿勢を知ることができた。このマカオ・スタディツアーの成果については日英 2 か国語の報告書を作成した。

7. 奈良スタディツアー（2014 年 2 月 11 日～14 日）の実施

玉川大学ユネスコクラブは、2014 年 2 月 11 日～14 日にかけて、奈良にスタディツアーを行った。これは、2013 年 11 月 30 日に開催された「ユネスコクラブ全国サミット」の成果の一つとして奈良教育大学ユネスコクラブとの交流が深まった結果、両大学ユネスコクラブの合同学習会として実施されたものである。奈良教育大学ユネスコクラブの案内により、奈良、斑鳩、明日香村、橿原における世界遺産の寺社など文化遺産や古代遺跡を見学し、また奈良教育大学にて ESD セミナーに共同参加した。「ユネスコクラブ全国サミット」の継続計画や、ユネスコクラブの大学間ネットワークにより「文化の和解の 10 年」等の国連イニシャチブに向けて具体的に貢献できる活動計画についても意見交換と協議を行った。この奈良スタディツアーの成果についても、報告書を作成した。

8. 大学ユネスコクラブ、地域ユネスコ協会青年部との合同学習会

現在、民間ユネスコ運動の総括機関である日本ユネスコ協会連盟でも、ユネスコスクールとユネスコ協会との連携強化がユネスコ活動の活性化に向けての大きなテーマになっている。この流れの中で、2013 年 10 月 19 日（土）、ユネスコ・アルムニクラブの呼びかけにより、玉川大学ユネスコクラブ、慶應大学ユ

ネスコクラブ、ICU ユネスコクラブの3大学ユネスコクラブが「ユネスコ合同学習会」を明治大学にて開催し、相互の活動紹介と今後の交流・連携の発展について踏み込んだ議論を行うことができた。

また2014年2月1日(土)に目黒区役所にて開催された東京都ユネスコ連絡協議会研修会では、木曾功前ユネスコ大使による基調講演の後、東京都内の玉川大学を含む大学ユネスコクラブおよびユネスコ協会青年部が一堂に会し、今後のESD活動の展開と青年ユネスコ活動の活性化、ネットワーク化について実り多い議論を行うことができた。今後もこうした大学ユネスコクラブと地域ユネスコ協会青年部を横につなぐ合同研修会を定期的に開催してゆくことで関係者一同の合意がなされた。

9. ユネスコスクール加盟支援

ユネスコスクール申請に向けた関係小中高等学校への支援として、杉並区立西田小学校、稲城市立城山小学校、稲城市立稲城第二中学校、トキワ松学園中学校高等学校、立教女学院中学校・高等学校、桜丘中学・高等学校、東京立正中学校・高等学校、の加盟申請書に対するチェックとアドバイスをを行った。

10. ユネスコスクール加盟校への教育支援

世田谷区教育委員会、横浜市教育委員会、町田市教育委員会、ASPUnivNet等からの依頼を受け、世田谷区立中里小学校、横浜市立幸ヶ谷小学校、横浜市立永田台小学校、町田市立小山田小学校、湘南学園中学校高等学校、横浜シユタイナー学園のESD活動推進に向けた教育活動(出前授業および授業研究会の講師等)、教師教育に関する指導・助言を行った。

11. 世田谷区へのユネスコスクール支援活動

世田谷区教育委員会の依頼により、世田谷区立中里小学校(ユネスコスクール加盟申請中)にて2013年10月30日(水)および11月13日(水)に開催されたESD校内研究会にて講師として参加し、小学校における地域特性を生かした地域学習や環境学習を含むESD実践の可能性と課題について、講演と授業評価および担当教員との協議を行った。

今後は、世田谷区教育委員会とより密接に連携して、世田谷区におけるユネスコスクールの拡大とESD教育実践の支援を進めてゆきたいと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ユネスコスクールに関するイベントの開催）